

令和5（2023）年度

地域学校協働活動推進員養成研修③実施報告

実施日：令和5（2023）年8月31日（木）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。3回目の今回は、講師にNPO法人まなびのたねネットワーク代表理事の伊勢みゆき氏をお迎えし、地域学校協働活動における様々な効果を高めるために必要となる「熟議」等の話し合いを充実させるスキルの向上をねらいとした講話・演習を行いました。

講話・演習「聴き合える！考え合える！ファシリテーション

～ 連携・協働の礎となる場づくりを目指して ～

特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク
代表理事 伊勢 みゆき 氏



伊勢氏は、宮城県を中心に多様な人々が進んで学ぶことのできるプログラムの展開に取り組んでおり、これまで様々な実践に携わってきました。受講者は、人々の学びの充実・促進に日々尽力する氏の、豊富な経験に裏打ちされた講話に熱心に耳を傾け、演習に進んで取り組みました。

講話では、地域学校協働活動推進員に必要な知識や技術の一つとして「ファシリテーション」があることや、ファシリテーターとして意識すべきこと（参加者一人ひとりが主役となれるような学習者中心の場づくりをすること）、「場のデザイン」「対人関係」「構造化」「合意形成」といったファシリテーションの4つのスキルについて説明がありました。また、話し合いを「見える化」し、場の活性化や相互理解を促す技術として「グラフィック・レコーディング」「ファシリテーション・グラフィック」の紹介と説明もありました。さらに、氏がこれまでの実践から感じていることとして、ファシリテーションの上達には「失敗を恐れず場数を踏むこと」が大切であるとの話もありました。

演習は、主に講話で説明があったことを体験する時間となりました。同じ説明を聞いても聞く人によって理解はまちまちであり、共通理解を図ることの困難さを実感したり、与えられたテーマの話し合いで「グラフィック・レコーディング」を全員が行うことで、その要点や効果、難易度を感じ取ったりしました。この日最後の演習では、「子どもたちに身に付けてほしい力は何か？」というテーマで熟議を行い、参加者はそれまでに得たファシリテーションのポイントを意識しつつ、積極的な協議を行いました。



今回の学びを、連携・協働を進める上で欠かせない「話し合いの場」の充実につなげていただきたいと思います。



【受講者の感想から】

- ファシリテーターが、考えを「引き出す」意識が強すぎると、話し合いの参加者が「やらされ感」を感じてしまう、という話に納得しました。
- アイスブレイクの重要性、伝える側と受け取る側の共通理解の難しさなど、大変勉強になりました。
- 話し合いを「見える化」することも、重要なファシリテーターの役割であることを知りました。
- 学校支援ボランティア向けの研修会を実施したいと考えており、そこで本日の学びを生かしてファシリテーションをしたいです。
- ファシリテーションのスキルアップを目指して、失敗を恐れずにチャレンジしてみたいと思います。
- 研修を受けるたびに、コーディネーター（の役割）の奥深さを感じています。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp